



大学入試の英語が 聞く・話す・読む・書く 4技能評価に変わります!

TOEIC®780点以上、TOEFL iBT®71点以上で
センター試験など入試科目の英語が満点扱いに!?

現行の大学入試で問われる英語力は、文法と読解、すなわち「読む」の1技能に大きく偏重しており、総合的な英語力を求める世界標準に遠く及びません。日本人の多くが英語を苦手とする要因の一つがこの受験英語だと専門家からは指摘しています。

そのため文部科学省は、この春入学の新中学1年生が大学受験を迎える2020年度より、「聞く・話す・読む・書く」の4技能すべてをバランスよく評価するTOEIC®（トイーック）・TOEFL®（トーフル）などの英語検定試験を、大学入試に導入することを検討しています。

すでにTOEIC®やTOEFL®の活用を始めている大学もあり、筑波大学や立教大学でも、来年度、再来年度をめぐって対応準備が進められています。

4技能を総合的に身につける英語学習は、これからの主流になっていくことが予想されます。

さらに、小学校・中学校の英語授業改革の検討や、学校・自治体単位での中学・高校入試改革も始まっています。

今回のレプトンタイムズでは、保護者のみなさまに是非知っておいていただきたい、英語教育改革の最新動向と、将来の大学入試にレプトンが有効である点についてお伝えします。

表：大学の一般入試で要求されるTOEIC®・TOEFL iBT®の点数例

大学名	実施予定	TOEIC®	TOEFL iBT®
国際教養大学	実施中	780点以上	71点以上
秋田大学 国際資源学部	実施中	730点以上	61点以上
金沢大学 国際学類	2015年度	750点以上	71点以上
筑波大学	2017年度	未定	未定
立教大学	2016年度	790点以上	57点以上
山口大学 国際総合科学部	2015年度	730点以上	80点以上
立命館アジア太平洋大学	2015年度	780点以上	71点以上
長崎大学 多文化社会学部	実施中	650点以上	61点以上

(出所) 『日本経済新聞』 2015年1月12日朝刊 「入試英語、実践力を問う」ほかより作成



英会話や文法学習だけでは身につけません。

聞く・話す・読む・書く 4技能すべてをマスターする レプトン独自の学習法

Listening

ネイティブの音声を聞き、書き取る練習をします。意味を理解しながら聞き取る力が身につきます。



Speaking

ネイティブの音声を聞き、声に出してくり返す練習を何度も行います。その後、先生に発音をチェックしてもらいます。



Reading

会話文や物語文を読み、内容に関する英語の質問に英語で答える練習をします。図表・地図などから必要な情報を読み取る練習も行います。



Writing

テキストの単語や文を書き写したり、語句を並び替えて文を作ったりします。上級レベルでは、文法も学習します。



ネイティブの音声を聞いて発音し、発音した単語をくり返し書いて覚える。覚えた単語を使って英文を読み、読んだ内容を理解しているか、英語で質問に答え確認する。
このように「聞く・話す・読む・書く」の4技能を総合的にいつも学習しますから、レプトンはTOEIC®・TOEFL®に有効なのです。



TOEIC® (トイーック)

<http://www.toeic.or.jp/>

- 主に大学生や社会人が対象
- 日常生活やビジネスの場面における「聞く・話す・読む・書く」の4技能によるコミュニケーション英語能力を問うテスト
- 世界最大級のテスト研究機関である米国ETSが開発
- 世界約150か国・約1万4000の企業や団体が利用
- 日本企業では社員の採用や昇級などの評価に利用

TOEFL® (トーフル)

<http://www.cieej.or.jp/toefl/>

- 主に英語圏の大学・大学院への留学希望者が対象
- 大学生活や講義など、アカデミックな場面における「聞く・話す・読む・書く」の4技能によるコミュニケーション英語能力を問うテスト
- 世界最大級のテスト研究機関である米国ETSが開発
- 世界約130か国・8500以上の大学などが入試の一部としてスコア提出を求めている

TOEIC®およびTOEFL®は、Educational Testing Service (ETS)の登録商標です。



小学校・中学校の英語授業も変わる!

～2020年度より、新しい学習指導要領が施行～

小学校の 英語授業はこう変わる

現在、小学校5年生から行っている「外国語活動」を**小学3年生から開始（週1回）**し、英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験することで、コミュニケーション能力の素地を養う。

小学校5年生から、英語を成績評価の付く正式な教科（週3回）とし、簡単な会話に加えて、現在、中学校で行っているアルファベットの読み書きも前倒して学ぶ。

【具体目標の例】

馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、家族、一日の生活などについて、友達に質問したり、質問に答えたりすることができる。

中学校の 英語授業はこう変わる

授業は**英語で行うことを基本**とし、内容に踏み込んだ言語活動を重視。

身近な事柄を中心にコミュニケーションを図ることができる能力を養う。

【具体目標の例】

短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができる。



中学入試に英語試験が増加

首都圏を中心に、英語を入試に導入する私立中学校が増えています。たとえば、ことし2015年度の入試では、横浜市の桐蔭学園中学校や東京都の東京都市大付属中学校など、首都圏だけで少なくとも**32校**にのぼります。小学校での英語学習の本格化が今後さらに進むことを見越したこのような動きは、首都圏だけでなく、大阪や神戸の私立中学校の入試でも見られます。

(参考) 『朝日新聞』 2015年1月1日朝刊「中学入試に英語増加」より

大阪府の高校入試 「聞く・話す・読む・書く」重視 ～2017年度より導入～

大阪府教育委員会は、2017年度からの府立高校入試の英語の学力検査を、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく学習するという教育方針に則った内容に改めることを決め、実施に向けた具体的な作業を進めています。TOEFL®などの英語検定試験との連携も検討されています。

(参考) 大阪府ホームページ「大阪府立高等学校の英語学力検査問題改革について」より



小学校では、英語に関心を持たせたり、楽しく遊ばせたりするだけで終わるのではなく、定型の会話表現を使った、簡単な日常英会話ができるようになることなどが目標です。また、「読み・書き」の学習も加わります。

さらに中学校では、簡単な発表が英語でできる力を身につけるなど、身近な事柄について英語でコミュニケーションできる力の習得を目指します。





どうして2020年度なの？

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて、文部科学省は「アジアの中でトップクラスの英語力を目指す」と、実践で使える英語力の育成を目標として掲げているからです。



4技能すべてをマスターして、 大学入試にも就職にも役立つ TOEIC®・TOEFL®対応の英語力を

従来型の英会話教室・英語塾とはココが違います!!

1. 「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく学習する独自の学習法
2. 個別・自立学習だから、お子さまが自分のペースで、好きなだけ、がんばれる
3. 個別・自立学習だから、いつでも、どのレベルからでも、始められる
4. TOEIC®・TOEFL®につながる世界標準テストJET (ジェット) による達成度評価



NHK『あさイチ』で本格派の
英語教室として紹介されました！
(写真は撮影時の様子)

無料体験レッスンは...

Free Call 0120-981-299

上記フリーコールまでお問い合わせください。
最寄りの教室をご案内させていただきます。
(一部ご希望にそえない地域もございます)
体験したお子さまはみなさん大喜び！
安心してお越しください。

固定電話からのみ発信可能

受付時間
10:00～18:00(月～金)

ホームページからも無料体験レッスンのお申し込みが可能です。

<http://www.lepton.co.jp>



4つの技能をすべて習得!



「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語4技能の達成度をJETによって
正確に測りながら確実にマスターしていきます。